

JMOOC 講座

1. 概要

インターネットを利用したオープン教育は、学生に対する学修補助効果、教育の質の向上が期待されるだけでなく、「大学の知」を社会に還元する社会貢献にもつながるものであり、本学の新たな「価値」「意味」を創出する役割を担うと考えられる。また、広報効果として、その性質から国内のみならずグローバルに本学の知名度を高めることが期待できる。

本学は2014年度より日本オープンオンライン教育推進協議会（JMOOC）に参加し、毎年1～2講座を開講してきている。2019年度も1講座をJMOOC公認プラットフォーム「gacco」にて開講した。

2. 利用状況

(1). 開講講座情報

講座名：消費社会のこれまでとこれから：歴史と理論から考える

講師：社会学部現代文化学科 准教授 貞包英之

講座アシスタント：社会学研究科博士課程後期課程1名を配置

開講予定期間：2020年1月16日（木）から4週にわたり開講予定

受講登録者数：1,764名

受講修了者数：229名



図1：JMOOC 講座コースカード

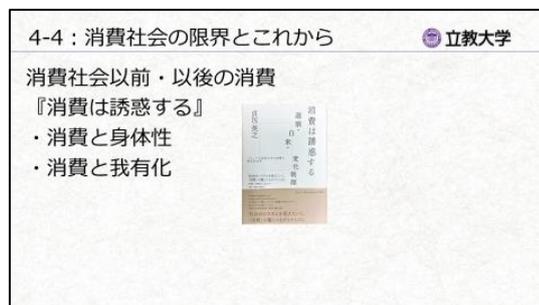


図2：JMOOC スライドイメージ

(2). アンケート集計

JMOOC プラットフォームを運営している(株)ドコモ gacco から提出された「受講状況等各種集計結果と受講者からのアンケート結果についての分析報告書」より一部抜粋する。

①受講状況

	受講者数	ディスカッションスレッド数	修了率
消費社会のこれまでとこれから：歴史と理論から考える	1,764	19	13%
gacco講座平均 (昨年度平均)	3,132	32	16%

②性年代別受講状況

	男性							女性							その他
	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	
受講登録数	22	129	125	178	201	199	144	76	79	83	74	70	49	21	314
受講登録構成比	1.2%	7.3%	7.1%	10.1%	11.4%	11.3%	8.2%	4.3%	4.5%	4.7%	4.2%	4.0%	2.8%	1.2%	17.8%
受講率平均	0.6%	7.0%	10.1%	13.4%	13.5%	8.6%	4.6%	0.5%	4.2%	5.4%	6.1%	5.0%	1.8%	0.6%	18.6%

③受講登録推移



④アンケート結果

職種 (受講前)		
カテゴリ	回答数	構成比
01. フルタイムで働いている	320	51.7%
02. パートタイム、アルバイト	72	11.6%
03. 専業主婦 (夫)	24	3.9%
04. 無職	152	24.6%
05. 小学生	1	0.2%
06. 中学生	0	0.0%
07. 高校生	13	2.1%
08. 短大生・高専生・専門学校生	1	0.2%
09. 大学生	26	4.2%
10. 大学院生 (修士課程)	4	0.6%
11. 大学院生 (博士課程)	0	0.0%
12. 上記以外の学生	6	1.0%
回答数合計	619	100.0%

講座の満足度 (受講後)		
カテゴリ	回答数	構成比
01. 大変満足	71	38.6%
02. まあ満足	100	54.3%
03. やや不満	10	5.4%
04. 不満	3	1.6%
回答数合計	184	100.0%

講座の受講状況 (受講後)		
カテゴリ	回答数	構成比
01. Week1講義動画を受講した	179	11.7%
02. Week1理解度確認クイズに回答した	172	11.2%
03. Week2講義動画を受講した	177	11.5%
04. Week2理解度確認クイズに回答した	167	10.9%
05. Week3講義動画を受講した	177	11.5%
06. Week3理解度確認クイズに回答した	171	11.1%
07. Week4講義動画を受講した	177	11.5%
08. Week4理解度確認クイズに回答した	172	11.2%
09. Week4最終レポートに回答した	144	9.4%
回答数合計	1536	100.0%
回答人数合計	184	

3. 2019年度のまとめ

本学では7講座目のJM00C出展であり、2019年7月より講座準備を始め、9月上旬にPVおよび講座の撮影、10～12月にかけて課題の設定などを終え、予定通り2020年1月16日に開講を迎えた。

性別・年代別集計では、女性受講者が10～50代にかけて満遍なく受講していたこと（他講座と比べて10代の受講者割合が多いのは特筆すべき点である）、60代以上の男性受講者が多かったことから、社会学の理論として基礎から学びたいという学生のニーズと、かつて社会学を学んだ層の学び直しというニーズを捉えた講座であったと考えられる。

受講後アンケートにも「これまでに聞いたことのない人名、用語にたくさん触れることができ、それをふまえて現在自分の置かれている消費社会というものを見るきっかけになりそうです」「社会の見方・捉え方として新たな視点を得たように感じた」という学生視点からの意見と、「歴史の流れの最先端に今の消費社会があるのだと、あらためて気づかせていただきました。特に社会に影響を与える思想、哲学の変遷に興味を持ちました」という年配男性からのコメントがあった。

また、今回は受講者によるレポートの相互採点ではなく、講座担当教員による採点という形式をとったが、「公平でいいと思う」「評価について信頼性が持てますが、他の人たちの課題も見てみたかったのでちょっと残念です」「論文に対するコメントが欲しかった」との意見が寄せられた。担当教員にとっては短期間で数百人のレポートを採点することになり負担はあるが、受講者からは新鮮に捉えられ、他講座との差別化を図るという点で今後の講座運営の参考となった。